



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL(058)244-0150 FAX 244-0151
ホームページ <http://gikyo.ktroad.jp/>

昨年12月7日(土)クララザールじゅうろく音楽堂にて、岐阜県立岐阜盲学校の生徒さん、親御さん、関係者の皆さま73名をお招きし、岐阜ロータリークラブ90周年記念事業「耳から心に響けクリスマスコンサート」を開催しました。岐阜県交響楽団弦楽五重奏、木管五重奏、金管五重奏の皆さまにご出演頂きました。日頃、主に聴覚や触覚から情報を得られている皆さま方に、音響の素晴らしいホールで岐阜県交響楽団の生演奏を体感して頂き、音楽の魅力を感じて頂けれ



「耳から心に響け クリスマスコンサート」に寄せて

岐阜県交響楽団

理事 向井 一比古

ばとの想いで開催いたしました。

当日、午前中に盲学校にて文化祭が開催され、午後、クララザールでのクリスマスコンサートにご参加頂きました。来場して頂き、まず

始めにホワイエにて弦楽、木管、金管の各楽器に触れて頂くコーナーを設営しました。

興味津々、好奇心に満ちた表情で恐るおそる楽器に触れる生徒さん達が、大変印象に残っています。岐響さん

から演奏前に楽器に触れて頂くコーナーのご提案を頂き実現した企画です。触れる事で、楽器への理解も深まり大変有意義な設営をして頂けたと思っております。

演奏曲は、弦楽五重奏、アイネ・クライネ・ナハトムジーク、崖の上のポニョ、世界に一つだけの花など、木

管五重奏は、クリスマスソング・コレクション、会場のみんなで手拍子をするクラツピングソングなど。金管五重奏は、展覧会の絵、サイレント・ナイト等の演奏をして頂きました。本格的なクラシック音楽だけでなく、クリスマスソングやアニメソング、幅広いジャンルからの選曲と楽しい雰囲気を出して下さる司会進行により、生徒さん達が心地よい表情で熱心に聴き入っていました。

演奏終了後、盲学校代表生徒さんから丁寧なお礼の言葉を頂きました。演奏を聴き更に楽器に興味を沸いた生徒さん達は、再度ホワイエで時間を惜しむように楽器に触れていました。

昨年は、定期演奏会、国民文化祭関連事業への参加でご多忙のなか、岐阜ロータリークラブ90周年記念事業コンサートでの演奏をお受け下さり感謝しております。

また、コンサートでは、岐響さんの企画、演出、演奏のお力添えのお陰で、ご参加いただいた皆さまに、タイトル通

り「耳から心に」素敵なクリスマスプレゼントができたと思っております。誠にありがとうございました。

今回の事業を通して、社会をより良くする音楽の力強さと岐響さんの心穏やかな尊さを改めて感じました。今後も微力ながら、岐阜県交響楽団をますます応援させて頂きたいと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

(株)向井建築事務所

代表取締役



松元宏康先生 岐響と音楽と、そして…

今回が初めての共演となります松元先生。そこでお忙しい中、岐響からの様々な質問に対して、お答えいただきました。

松元先生とは、今回が岐響にとりまして初めての共演となります。そこで、先生が現在どんな活躍をなされているのか、自己紹介をお願いできますか？

私は指揮者として色々な仕事に携わらせていただいているのですが、まず大きな柱になっているのは、日本中のプロオーケストラに客演して指揮活動をする事です。また指揮するジャンルも様々で、ベートーヴェンやモーツァルトなどのクラシック音楽はもちろん、ポップスやゲーム音楽の指揮もします。これまでにV6のイノッチさん、小林幸子さん、西川貴教さん、ももクロの佐々木彩夏さん…などと共演させていただきました。もしかすると指揮者としては広いジャンルで活動させていただいているのかも知れません。

そして、指導にも力を注いでいます。音楽大学での授業やアマチュアオーケストラの指導などです。

先日、初めて岐響練習場にいらっやって、岐響を指揮していただきました。岐響の最初の印象はいかがでしたか？

皆さんお会いした瞬間からリラックスしてリハーサルに臨んでくださったのが印象的でした。初回リハーサルというのは、初顔合わせなので、必要以上の緊張感ある空気になりやすいのですが、岐響には良い意味でそれがなかったですね。きっと、これまで様々な指揮者と多くの本番をされてきた経験による、余裕の風格なんだと思います。

なので、リハーサルが始まりすぐに音楽づくりに取り組むことができて素晴らしいと思いました。

また、皆さんは話を注意深く聞いてくださいますし、一旦しっかり自分と落とし込んでから演奏に臨まれます。

それは皆さんの強みですね。

これだけ良いスタートを切れたので、今度はコンサートに目標を絞ってリハーサルを進めていくことになりませんが、今回のように、短期の練習でコンサートに臨む時には、最初から最後までとりあえず通すことができます、つまり枠のみを作り上げておしまいになっしまわぬように注意が必要です。短時間でも音楽的な集中力をもって、密度の高い充実した音楽を奏でられるようになるかが試されると思います。

ありがとうございます。さて、今回のプログラムが、「今昔らぶ物語」（こんじゃくらぶものがたり）ということですが、先生としてはこのテーマから、どんな演奏会を目指していられっしゃいますか？

ファミリーコンサートということで、普段はオーケストラ音楽に馴染みがない方もご来場されることだと思います。

そのようなコンサートでは、テーマがあった方がより音楽を楽しめるのではないのでしょうか。今回は「恋愛」をテーマにお送りしますが、恋愛と聞くと私

たちは柔らかに満たされた気持ち想像します。しかし、恋愛を叶えるためには様々な困難も伴い、そこにはドラマが生まれます。そのようなことで、ファミリーコンサートでは大河ドラマの主題曲やシェイクスピアのロメオとジュリエットを基にした音楽などを聞いていただきます。それらは人間の心について描いた作品で、多彩な音色などオーケストラの音楽力が求められます。ぜひコンサートを最後まで楽しんでいただき、今回の演奏を聴いてオーケストラ音楽の素晴らしさ、楽しさ、また岐響の魅力を知っていただければ幸いです。



▲岐響練習場での松元先生

プログラムの中のそれぞれの曲について、先生から見られたイメージなど、お聞かせいただけますか？

今回取り上げる作品で特に思い入れがある作品は、ロメオとジュリエットとウエストサイドストーリーセレクションです。ロメオとジュリエットは、アマチュアオーケストラでよく取り上げる作品の一つで、日本中のオーケストラで演奏をいたしました。面白いものでこの作品は、オーケストラによって湧き出てくるカラーが全く違います。岐響とはどんな音楽を奏でることができるか楽しみです。

ウエストサイドストーリーは、ミュージカル音楽の最高傑作です。今回のセレクションは名場面のメドレーになっていて、その1曲1曲が名曲です。実はこの作品も私の重要なレパートリーで、プロのオーケストラで50回ほど取り上げております。コンサートプログラムはオーケストラのメンバーが決めるものですが、今回のコンサートのご依頼をオーケストラからいただいて、プログラムを提案された時に「なんで岐響は、まだ顔を合わせたことがない僕の得意な曲を知っているのかな」と嬉しくなりました。ご縁が

ありますね。

先生は指揮者として、普段からどんな音楽を目指していらっしゃるのでしょうか？ また音楽創りにおいて、大切になさっていることはありますか？

まず音楽を奏でる時に大切にしていることは、その演奏が自然であることです。演劇で例えるなら音楽家にとって楽譜が台本であり、その台本を自然に表現することが何より重要だと考えています。役者さんが「自分は絶対にこうやりたいんだ」という極端なわがままを言うてはいけませんし「書いてあることだけしゃべってれば物語は伝わるんだ」という勘違いがあつてはならないと思います。音楽も同じです。だから自然に演奏することってとても難しいことなんです。演劇で自然さを求められるのと一緒です。

また、指揮者の仕事で大切なことは「それぞれの奏者が感じた音楽を上手に取りまとめる」ことだと思っています。それは奏者の個性を大切にすることですが、オーケストラの奏者は何十人もいるので、なかなか全員の主張を全部生かす訳にはいきません。そこで、奏者の皆さんが納得して同じ

方向を進められるように気を払うのですが、その作業をするためにはその場の空気を感じる必要があります。その場の空気を感じるためには、奏者も指揮者もリラックスしている必要がありますので、私は練習の雰囲気をとてども大事にします。これはもしかすると、リーダーと呼ばれるすべての人に求められることなのかも知れませんね。

さて、先生は、お笑い芸人「ジャジャジャーン」としてもご活動されているとお伺いしました。こちらの活動についても教えていただけますか？

ここまで真面目にカッコよくお答えしてきたのに、最後はお笑いの話で締めくくるんですね(笑) 指揮者がお笑いをやると言うと、多くの方が「どうせ面白くないのだろう」という顔をします。指揮者は堅物というイメージがありますからユーモアセンスがなさそうに感じるんでしょうね。

一応芸人の経歴的には芸歴5年目で、これまでM-1グランプリ出場とか、色々なテレビ番組に出演させていただいています。

昨年は日テレの有名お笑い番組「うちのガヤがすみません！」にも出演しました。そういう意味では、世間的にまったく面白くない芸人ではなさそうですね(笑) ちなみにですが、本来の私の性格は人見知りなんです。目の前の人が自分に喋り続けていないと場がもたない、いわゆる沈黙が怖いタイプです。でも、それがステージに立つたり、指揮棒を持つとスイッチが入るんですよ。不思議です。そんな私でも、お客さまからコンサートの感想を直接聴けると嬉しいので、ぜひ私をコンサート会場で見つけたら、皆さんの感想を絶え間なく喋り続けていただけたらありがたいです。

お忙しい中、大変興味深いお話をお伺い出来ました。ありがとうございます。



▲お笑いコンビ「ジャジャジャーン」のお二人

「清流の国ぎふ」文化祭2024

「清流の国ぎふ」文化祭2024

を終えて

担当常務理事…早川 幸

時は令和3年12月24日クリスマススイ
ブ。「令和6年度に国民文化祭開催の
計画があるが、岐響として何か協力い
ただけないか」が始まりでした。国民
文化祭は文化庁が主催し、全国47都道
府県が持ち回り開催するいわば「国体
（国民スポーツ大会）」の文化版。岐阜
県は平成11年度（第14回大会）以来25年
ぶり2回目の開催となりました。「と
もに・つなぐ・みらいへ」清流文化の
創造」をキャッチフレーズに令和6
年10月14日から11月24日までの42日間
で、県内全42市町村で300を超える
事業が開催されました。

岐響は其中で岐阜県アマチュア
オーケストラ連盟の一員として「開会
式」「オーケストラの祭典」に、岐響単
独として「ぎふ市民劇『道三』」「千人の
第九」と4事業に出演しました。42日
間で4公演という非常にタイトなスケ
ジュールになるため、秋の定期演奏会
を取りやめてこの4事業に集中してき
ました。

その一つ一つは定期演奏会にも匹敵
する（もしかしらそれ以上）貴重な体
験と本当に幸せで素敵な時間でした。

それぞれ出演した団員が寄稿していま
すので、是非ご一読ください。

今回の公演会場も通常使用では対
応できず、本当に工夫に工夫を重ねた
ものでした。「道三」以外の公演会場は
アリーナで行うことになりました。何
もないただの広大なスペースが、
リハーサル初日の会場は立派なコン
サートホールになっていてビックリ！
すべての会場で「出演者に少しでも良
い環境で良い音楽をしてもらい、ご来
場者に幸せな時間を共有してもらいた
い」という思いで本当に多くの方が動
いてくださいました。そのためにはで
きる限りのことをしていく！ 図面を
何度も書き直し、マニュアルを何度も
検討し、多くの出演者をコーディネート
し、などなど…。国民文化祭最終盤
で大変盛り上がりつつ千人の第九」の
指揮者井村さんも、「会場一体で盛り
上げたい」とご自分で紙テープを巻き
（千人の第九」1曲目の最後に紙テー
プが舞った！）、舞台監督とも何度も
何度も打ち合わせをしてくださいまし
た。すべての公演に打ち合わせから仕
込み、本番と立ち会わせていただいた
（出演もした）私は、スタッフの皆さ
んの情熱と動きに感心と感動でした。
ステージでスポットを浴びる私たち

陰で支えてくださっている方々を決し
て忘れてはならない、と改めて思いま
した。

いろんな方と出会い、共に創造し、
未来へつなぐ

：このような
機会を与えて
いただけたこ
とに感謝し、
今後も岐阜県
の文化の発展
に貢献できる
よう、頑張っ
て参ります。

次、岐阜で
の開催は何年
後？



▲千人の第九、会場設営中のアリーナの様子

【開会式 10月14日（月・祝）】
一生に一度の貴重な体験

伊藤巖（コントラバス）

2024年10月14日（月・祝）、岐阜
メモリアルセンターで開催された「清
流の国ぎふ文化祭2024」開会式に
「清流の国ぎふフェスティバルオーケ
ストラ」の一員として参加させていた
だきました。

開会式は、天皇・皇后両陛下ご臨席
の中、岐阜県内の伝統芸能、音楽、舞
踊の各団体が一同に集まり、華やかに
盛大に開催されました。「清流の文化」
を表現し、岐阜県が誇る様々な文化の
創造・発信・深化をめざした素晴らしい
開会式でした。



▲稲川永示さん（前列右）

開会式本番での感動はもちろん、そ
こに至るリハーサルの中で、舞台・音
響・照明・道具などのスタッフ一人ひ
とりが一生懸命に、また非常に組織
的に動きながら、開会式を仕上げてい
く姿に感銘を受けました。大道具のス
タッフと話したおり、「いろいろな道
具があり大変だけどやりがいと楽しさ
があります。」と聞き、自分も演奏に頑
張らないといけないと感じました。

さて、演奏では、私の前にNHK交
響楽団のコントラバス奏者である、稲
川永示さんが座られるという配置でし
た。音色・発音・弓使い・指使いなど、
興味津々で後ろから見させていただき
ました。発音の明確さや表情の出し方
など、大変参考になりました。大変に
貴重な時間でした。私にできるかどう
かは別として、今後の演奏に生かさね
ばならないと強く思いました。

いずれにしても、このような貴重な
体験は、一生に一度あるかないかです。
生きていてよかった。

余談ですが、開会式で司会や朗読を
つとめられた、以前からの大ファンで
ある、竹下景子さん・紺野美沙子さん

とお話ができ、ツーショット写真を撮らせていただきました。私の部屋に家宝のように飾ってあります。本当に生きていてよかった…。

【オーケストラの祭典】10月27日(日)
「オーケストラで奏でる

清流の響き」に参加して

山北聖子(フルート)

10月27日(日)高山市の飛騨・生活文化センター 飛騨コンベンションホールにて、オーケストラの祭典が行われました。

2部構成の演奏会で、第1部はホストオーケストラとして岐阜県の仲間約100人

による歓迎演奏、第2部はフェスティバルオーケストラとして、北は青森から南は沖縄と、日本全国から公募により集まった約150人による特別演奏で、指揮者の井崎先生、ゲストコンサートマスターの平光先生と共に盛大



▲高山市「飛騨コンベンションホール」にて

な演奏会となりました。

それぞれ初練習時には初対面の奏者同士で挨拶等が交わされ、井崎先生の指揮のもと、緊張もありましたが、曲のポイントを確かめながら演奏を合わせ、一体感を感じながら練習を進めていました。

このような大きな演奏会で、多くの人との繋がりがや一体感、そして、音楽の素晴らしさを発信できる機会に恵まれたことに感謝いたします。

【ぎふ市民劇「道三」11月4日(月祝)】
ぎふ市民劇「道三」斎藤道三の半生

内藤真史(トロンボーン)

11月4日、長良川国際会議場にて、ぎふ市民劇「道三」斎藤道三の半生が開催されました。

「美濃のママシ」とも称される戦国大名斎藤道三にスポットライトを当てた本舞台は、演劇、邦舞、洋舞、邦楽、洋楽(オーケストラ)、合唱が垣根を超えてコラボレーションし、各分野総勢350名以上の演者・スタッフが力をあわせて創り上げた、総合芸術作品と呼ぶにふさわしい舞台となりました。

私自身はオーケストラピットに入っ

て劇伴奏は初めての経験で、かつ普段のクラシック音楽とは異なり参考に出

井村誠貴先生の軽快なトークを交えた的確な音楽作りによって、演技の空気感を引き立てるための音楽づくりや舞のステップを意識したテンポづくりがなされ、舞台の皆が一つにまとまって道三ワールドを創り上げられたと確信しました。

カーテン

コールの際、演劇や舞の方々のあいさつのBGMとして演奏した際に、満員の客席から温かい拍手をいただき、心温まる時間を過ごさせていただきまし



▲ぎふ市民劇「道三」、オーケストラピットに入る岐響

【千人の第九 11月17日(日)】

第九でつなごう 美しい岐阜の未来へ

末松里菜(パーカッション)

「清流の国ぎふ千人の第九」公演が無事に終演できましたこと、心より感謝申し上げます。

今回の公演を大きく二つに分けて振り返るとすると、一つ目は、会場の一体感。終演後の振り返りで、合唱監督の山口先生が「リハではいろいろダ

メ出ししましたが、本番は何も言うことありません」と、満面の笑みでおっしゃっていました。私もその時、自然と首を大きく縦に振っていたと思います。妥協なしの音楽づくりと、千人だからこそ叶えられた迫力。後ろから突き抜けてくる歌声が、本当に気持ちよく聞こえました。

二つ目は、作曲者の意図を表現するという思い。第九の繰り返しは全部あり、配置は対向配置など、すべてが作曲された当時を意識した形となっていました。また、ティンパニについては、第九の中でまるでソロ楽器のように取り入れられているからこそ、緊張感や響き、呼吸感、常にオーケストラと共に、心がけていました。

オーケストラは指揮者が棒を振った瞬間、皆が同じハーモニーを奏でます。

そんな、心を一つにした瞬間がより味わえたのが、今回の第九公演。皆さまの心に、力強い「フロイデ(喜び)」をお届けできたのではないのでしょうか。



▲最高に盛り上がった「千人の第九」本番の様子

名誉指揮者 秋山和慶先生を偲んで

トレーナー(前常務理事) 田中 陽治

95年10月、瑞穂市サンシャインホールに秋山先生をお迎えして第50回定期(12月)に向けての練習が行われました。岐響の歴史の中でホールを借りての通常練習はこのときが唯一です。コンサートマスターの神原光夫先生が「お世話になった名誉指揮者をお迎えするんだから、これくらいのことは当然」と言われたことを思い出します。

練習はブラームスの交響曲第4番が中心。第1楽章冒頭アウフタクトへの入りから始まった明快そのものの棒の動きに団員が感動し、その後も語り草になっていました。私は学生だった77年6月の岐響定期(ショスタコーヴィチ 交響曲第5番)以来で、その時も「美しく、かつ内面のエネルギーがほとばしる棒だなあ」と。(その2年前、75年7月に初めて岐響で「新世界」他を振られています。私は入団前で、超満員だった岐阜市民会館の後ろで立っただけ鑑賞していました)

ご逝去を受け、昨年末で引退された井上道義さんが、「斎藤秀雄先生の一番弟子は小澤征爾さんだけど、秋山さんこそが斎藤指揮法の最上の体現者だった。無駄な動きをどう削ぎ、意図を分かりやすく伝えるか。指揮法とはつまりは作法なのだ」、そんなコメントを出しておられましたが、ちょうど95年から斎藤式指揮法を学び始めていた私も、同じようなご助言をいただきました。「棒の動きは単純明快に。そこに自分の願い・思いをどう乗せるか、それが指揮法を学ぶということ」。先生の棒は、斎藤先生の「指揮法教程」に則って、生きているかのようでした。

名誉指揮者の称号は、何度かお電話を差し上げた時の記憶から、多分、社団法人化を機に依頼して受諾いただいたのだと思います。プログラムの団員名簿最上段にいつも「名誉指揮者・秋山和慶」のお名前があることに、誇りとともに責任の重さを感じてきました。

でも、ふだんは冗談好きな楽しい方で、ブラ4打ち上げのとき、コントラバスS氏について「彼の目玉(視線)は当分忘れられそうにない」と話されみんな爆笑、外科医の彼がメスとベース弓の持ち方の類似点を語ると今度は秋山先生の目がまん丸になって爆笑。その光景が忘れられません。

これまで長くにわたり岐響の精神的な支えになっていただき、本当にありがとうございました。

お礼とともに心からご冥福をお祈りいたします。



秋山和慶
12-10

打ち上げでは、多くの団員からの写真撮影希望にこやかに対応してくださっていました

今年度(令和6年度)の活動より

- 5月19日(日) リラックスコンサート(会場：ぎふワールド・ローズガーデン：可児市)
- 7月6日(日) 第101回定期演奏会(会場：サランカホール、指揮：藏野雅彦)
- 7月28日(日) 実演芸術アウトリーチ事業vol.1 (会場：地域交流センター はなもも 揖斐川町立北和中学校)
- 8月4日(日) 本巣市制20周年記念コンサート(会場：本巣市民文化ホール 指揮：田中陽治)
- 10月14日(月祝) 「清流の国ぎふ」文化祭2024 開会式(会場：岐阜メモリアルセンター)
- 10月27日(日) 「清流の国ぎふ」文化祭2024 「オーケストラの祭典」(会場：飛騨・世界生活文化センター)
- 11月4日(月祝) 「清流の国ぎふ」文化祭2024 ぎふ市民劇「道三」(会場：長良川国際会議場)
- 11月17日(日) 「清流の国ぎふ」文化祭2024 「千人の第九」(会場：岐阜メモリアルセンター)
- 12月15日(日) 実演芸術アウトリーチ事業vol.2
(岐南町立岐南中学校)
- 2月2日(日) 幼稚園児親子のためのコンサート
(会場：不二羽島文化センター)
- 3月16日(日) '25岐響ファミリーコンサート
(会場：不二羽島文化センター)

編集後記

今回の機関紙「ひびき」は、昨年秋の「清流の国ぎふ」文化祭2024の出演に伴い、通常の定期演奏会を開催しなかったため、3月の発行となりました。